

認定看護の役割と活動

第13回『訪問看護認定看護師』

訪問看護ステーションオハナ

管理者 たかはた 高畑 ともこ 智子 様

令和4年7月掲載

地域包括ケアが展開されていく中で、「生活を支える看護」という視点が重要視されてきました。

在宅（住み慣れた施設も含めて）は、どなたにとっても自分らしく居られるオアシスです。病気や障がいを抱えている方にとっては暮らしの中に療養があります。その療養が少しでも安定して過ごせるようにチーム力を発揮するのが訪問看護師です。訪問看護の楽しさと充実感に魅せられ、訪問看護認定看護師になって10年が経過しました。今年2回目の更新となります。

日本訪問看護認定看護師協議会は、全国9ブロックに分かれ北海道ブロックは9名在籍しています。北は稚内、東は釧路、札幌、帯広、函館にいます。道南では函館の私1名です。

昨年の北海道ブロックの活動として、2021年度日本財団支援事業（遺贈基金）「在宅看取りを实践できる訪問看護師の育成」がありました。

お母さまが生前、在宅療養中に訪問看護を利用され、ご遺族から「訪問看護師に大変お世話になった“在宅看取りにかかわる専門職を支援したい”」という想いが込められた遺贈基金でした。全国それぞれの方法で研修を企画し、北海道ブロックは200名の研修枠に300名以上の応募があり、大きな反響がありました。北海道ブロックの研修内容は、3

事例①「自宅で最期を…」を支えた非がん療養者の支援②外来通院がん患者の自宅看取りまで③独居高齢者の看取りを経験してを発表, 参加者から質問を受けて認定看護師が座談会形式で回答していくものでした。事前のアンケートからも, 「今まで在宅看取りの経験がないので具体的なイメージを持ちたい」など積極的な姿勢が感じられ, 受け身ではなく「知りたい」「理解したい」「自分の地域に生かしたい」と訪問看護師たちの日々の奮闘が感じられるものでした。

北海道の特性としては, 広大な土地, 過疎問題, 超少子高齢化等の地域性による問題が多数存在しています。その1つが「地域によっては」在宅で看取る医師が少ないということです。道内の訪問看護師たちは, 看取りの技術以前のジレンマがあることがわかりました。これからの道内の在宅医療の課題として, 知恵を出していかなければなりません。道南地域としては, 在宅医療の資源は多く, 顔の見える関係性が長年の風土として根付いています。また勉強熱心な施設, 事業所が多く, 恵まれているように思います。

道南訪問看護ステーション連絡協議会では, 不束者ながら会長として5年目となりました。管理者たちが月1回, 情報交換の場としてZOOM会議や勉強会を行っております。最近では事例検討会を定例で取り入れ, 訪問看護の柔軟思考を養っております。

何か訪問看護に関する相談事がありましたら, 現在事務局となっております下記までにご一報くだされば, できる範囲で対応したいと思います。例えば, 「こんなケースで訪問看護はどのように効果的に利用できるか?」「このような方に利用できる制度はあるのか?」など, 自分たちの勉強にもなりますので, 相談していただけたらと思います。

●道南訪問看護ステーション連絡協議会●

(現事務局)

訪問看護ステーションオハナ

管理者：高畑智子

〒041-0822 函館市亀田港町 10-17

電話：0138-43-7581 FAX：0138-43-7582

